

2018 年 3 月期 通期 決算説明会 主な質疑応答（要旨）

Q1 プライシングの適正化について今後の取り組みを教えてください。

- プライシングの適正化は継続的な取り組みと考えています。サービス提供にかかるコストに対して適正な利益が得られているか、試行中の「法人顧客プライシングシステム」を用いながら個社ごとに確認し、外部環境に応じて変化するコストなどを踏まえてプライシングの見直しに取り組みます。

Q2 集配キャパシティの拡大に向けた人員体制構築の進捗状況を教えてください。

- 前期は、働き方改革による環境整備を進めながら積極的に人材採用を行い、フルタイム、パートタイマー合わせて 1 万人超の増員を行いました。今期は約 1 万 6 千人の増員を計画しており、今後の外部環境の変化なども見据えながら、取り組んでいきます。

Q3 設備投資の見通しを教えてください。

- 持続的な成長に向けて、働き方改革や事業・経営構造改革、デジタルイノベーションへの対応に積極的な投資を行います。前期は、715 億円の設備投資を行いました。そのうち 300 億円超はヤマトリースのリース資産でした。なお、今期は 800 億円の設備投資を見込んでいます。

Q4 来期（2020 年 3 月期）の計画営業利益目標 720 億円に向けた、増減の要因を教えてください。

- 弊社の次なる 100 年、すなわち 2020 年 4 月以降の成長に向け、来期が最終ゴールではなく、計画営業利益 720 億円は中間目標と位置づけています。持続的な成長を実現していくためには集配キャパシティを広げる体制の構築や、技術革新への対応を実行することが重要な鍵となります。今期以降もデジタルイノベーションへの対応や事業効率化に向けた投資を積極的に行い、成果に結び付けていきたいと考えています。

以 上